

今日われ善きことせしか

トーマス・S・モンソン大管長

困っている人はいつでもおり、わたしたちはそれぞれ、だれかを助けるために何かすることができます。

愛する兄弟姉妹の皆さん、この朝に、わたしの心はイエス・キリストの福音への愛と皆さん一人一人への愛にあふれています。皆さんの前に立つ特権に感謝し、ここで述べるように促されることを効果的にお伝えできるよう祈っています。

数年前にジャック・マコネル医学博士が書いた記事を読みました。博士は合衆国バージニア州南西部の丘陵地帯で、7人きょうだいの一人として育ちました。父親はメソジストの牧師、母親は専業主婦で、貧しい家庭環境でした。博士は子供のころを思い出し、毎日家族で夕飯の食卓を囲み、父親が子供たち一人一人にこう尋ねたと語っています。「今日だれかのために何かをしてあげたかい。」子供たちはだれかを助けたことを父親に報告できるように、毎日善い行いをしようと決心していました。博士はこの習慣を父親の最も貴重な遺産と呼んでいます。なぜなら、その期待とその言葉に鼓舞されて、子供たちは生涯人助けをするようになったからです。成長し成熟するにつれて、人を助けたいという心からの願いによって奉仕するようになりました。

マコネル博士は、結核のツベルクリンテストの開発を指導し、ポリオワクチンの初期開発に参加し、タイレノール（鎮痛解熱剤）の改良を監督しました。また、磁気共鳴映像法、すなわちMRIの開発に貢献したうえ、ボランティア医療協会という団体を組織し、退職した医療関係者に医療保険に加入していない労働者のための無料診療所で働く機会を作るなど、顕著な経歴の持ち主です。博士の話では、退職後も余暇の時間はなく、「週に60時間、無報酬で働いていますが、ますます元気になり、かつてないほど人生が充実している」そうです。博士は次のように述べています。「人生の逆説の一つだと思いますが、わたしはボランティア医療協会で、患者さんが得たよりも多くの恩恵にあずかっています。」<sup>2</sup>そのような診療所は今や合衆国全土に70か所以上あります。

もちろん、わたしたち皆がマコネル博士のようになり、貧しい人を助ける診療所を建てられるわけではありません。しかし、困っている人はいつでもおり、わたしたちはそれぞれ、だれかを助けるために何かすることができます。

使徒パウロはこう勧めています。「愛をもって互に仕えなさい。」<sup>3</sup>また、モルモン書の中のベニヤミン王の言葉を皆さんも覚えているでしょう。「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのである……。」<sup>4</sup>

救い主は弟子たちにこう教えられました。「自分の命を救おうと思う者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者は、それを救うであろう。」<sup>5</sup>

救い主が言っておられるのは、自分を捨てて人に奉仕しなければ、自分自身の人

生の目的などほとんどないということだとわたしは信じています。自分のためにだけ生きる人は、ついには枯渇してしまい、比喩的に言えば、命を失ってしまいます。一方、自分を捨てて人のために奉仕する人は、成長し、繁栄して、実際に自分の命を救うのです。

1963年10月の総大会で、わたしは十二使徒定員会会員として支持されました。そのとき、デビッド・O・マッケイ大管長はこのように述べました。「人の最高の幸せは、ほかの人のために無私の行いをするることによってもたらされるものです。」<sup>6</sup>

わたしたちはすぐそばで生活していても、心と心が通っていないことがよくあります。わたしたちが力を及ぼせる範囲内に、「ギレアデに乳香はないのでしょうか」と手を伸ばして叫ぶ人がいるのです。<sup>7</sup>

教会員は皆、奉仕を行い困っている人を助けたいと思っていることをわたしは知っています。わたしたちはバプテスマを受けたとき「重荷が軽くなるように、互いに重荷を負い合う」と聖約しました。<sup>8</sup>皆さんはこれまでに何度、人が困っているのを目の当たりにして心を痛めたことがあるのでしょうか。助けの手を差し伸べようと思ったことが、幾度あったのでしょうか。にもかかわらず、日々の生活に追われて「きっとだれかが助けてくれる」と思い、人任せにしてしまったことが、幾度あったのでしょうか。

わたしたちは日常生活の忙しさに埋没しています。でも、少し立ち止まって自分が何をしているかをよく顧みてみると、それほど重要でもないことに没頭していることが分かるでしょう。つまり、大きな目で見れば、ほんとうは大して重要ではないことに大半の時間を費やし、もっと重要なことをないがしろにしていることが往々にしてあるのです。

何年も前に聞いた詩の一節がわたしの心に残り、人生の道しるべとなってきました。わたしの好きな詩の一つです。

人の必要に気づかずに、  
まくらを涙でぬらした夜は  
数知れない。  
だが、ほんの少し人に尽くしすぎたからといって  
悔やんだことは  
一度もない。<sup>9</sup>

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちの周りには、家族、友人、知人、他人を問わず、わたしたちの注目、励まし、支え、慰め、親切を必要としている人が大勢います。わたしたちは地上で主の御手に使われる器であり、わたしたちには御父の子供たちに仕え、彼らを高める責務があります。主はわたしたち一人一人を頼りにしておられるのです。

このように嘆く人がいるかもしれません。わたしは毎日の必要に追われて、やっとの思いで切り抜けています。人のために奉仕をするなんて、どうしてできるで

しょうか。わたしにできることなどあるでしょうか。

ちょうど1年余り前に、わたしは誕生日を迎える前に『チャーチニュース』(Church News)のインタビューを受けました。インタビューの終わりに記者は、世界中の教会員が大管長に最高の贈り物ができるとしたら、それは何でしょうかと質問しました。わたしはこう答えました。「苦しんでいる人や病気の人、あるいは孤独な人を見つけ、その人のために何かすることです。」<sup>10</sup>

今年の誕生日に世界中の教会員から何百通ものカードや手紙が届き、わたしは胸がいっぱいになりました。昨年のわたしの願いをどのようにかなえてくれたかが書かれていたのです。奉仕の行いは、人道支援物資を集めることから庭仕事まで多岐にわたっていました。

多くの初等協会が子供たちに奉仕をするよう励ましました。そして、奉仕の行いが記録され、わたしに送られて来ました。記録の方法が創意工夫に富んでいたことを述べなくてはなりません。多くはページを綴じて、様々な形や大きさの本にしたものでした。子供たちが描いたり色を塗ったりしたカードや絵が入っているものもありました。ある大変独創的な初等協会は、大きな容器を送ってくれました。その中には「ウォームファジー」というふわふわした小さなおもちゃがたくさん入っていました。その年、何か一つ奉仕をするたびに、子供たちは容器の中にウォームファジーを一つずつ入れたのです。子供たちが自分のした奉仕について話し、容器におもちゃを入れたときのうれしそうな顔が目に見えます。

贈り物とともに送られて来た手紙がたくさんありますが、そのうちのごくわずかを紹介します。ある幼い子はこう書いています。「おじいちゃんが発作で倒れました。ぼくはおじいちゃんの手を握ってあげました。」8歳の女の子はこう書いています。「妹とわたしはおもちゃの戸棚をきれいに片付けて、お母さんや家族に奉仕しました。何時間かかかりましたが、楽しかったです。いちばんよかったのは、だれにも頼まれずにしたので、お母さんがびっくりして喜んだことです。」11歳の女の子はこう書いています。「わたしのワードにはあまりお金持ちではない家族がいて、その家には小さな女の子が3人います。お父さんとお母さんがどこかに出かけるので、わたしは3人の子守をしました。お父さんは5ドル札をくれようとしていましたが、もらえませんでしたと言いました。わたしの奉仕はただで子守をしたことです。」モンゴルのある初等協会の子供は、お母さんの代わりに井戸から水をくんで運んだと書いてきました。4歳の男の子からの手紙は、明らかに初等協会の教師が代筆したものです。「パパは軍隊の訓練で数週間留守です。ぼくの特別な任務はママを抱き締めてキスすることです。」9歳の女の子はこう書いています。「ひいおばあちゃんのためにイチゴを摘みました。とてもいい気持ちになりました。」もう一人の子供はこう書いています。「わたしは独りぼっちの子と一緒に遊びました。」

11歳の少年はこう書いています。「ある女の人の家に行き、質問したり歌を歌ったりしました。訪問してよかったと思いました。訪ねて来る人がいなかったの、喜んでくれました。」この手紙を読んで、ずっと前に十二使徒定員会のリチャード・L・エバンズ長老が書いた言葉を思い出しました。彼はこう書いています。

「若い人にとって、将来に備え活躍する時期から、引退する時期へ移行するときに感じる寂しさを理解することは困難です。……長い間、家の中心にいて、いつも皆から必要とされてきた人が、突然のように、傍観者の日々を送るのです。寂しい生活です。……長い人生を生きるまでは、家具だけがどんなにあっても部屋がうつろであることを知ることはできません。過去を思い出し、現在をいきいきと楽しむには、ヘルパーや施設、介護の専門家以上のだれかが必要です。……人生の朝とも呼べる青春時代を取り戻してあげることができませんが、思いやりの心や……偽りのない兄弟愛によって、人生の夕べをいっそう美しく輝く温かい光の中で過ごせるようにすることはできるのです。」11

誕生日カードと手紙は、若い男性と若い女性のクラスに所属する10代の若者からも届きました。病院に寄付するための毛布作り、食料配給所での奉仕、死者のためのバプテスマなど、いろいろな奉仕をしてくれました。

常に人々を助けている扶助協会も、普段以上の奉仕を行ってくれました。神権グループも同様でした。

兄弟姉妹の皆さん、妻とわたしは文字どおり何時間もかけてこれらの贈り物に目を通しましたが、これほど感動し感謝の念に打たれたことはありません。今この経験について話しながら、与える人の生活も受ける人の生活も祝福されたことを思うと、胸がいっぱいになります。

マタイ書第25章の言葉が浮かんできます。

「『わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。

あなたがたは、わたしが空腹のときに食べさせ、かわいていたときに飲ませ、旅人であったときに宿を貸し、

裸であったときに着せ、病気のときに見舞い、獄にいたときに尋ねてくれたからである。』

そのとき、正しい者たちは答えて言うであろう、『主よ、いつ、わたしたちは、あなたが空腹であるのを見て食物をめぐみ、かわいているのを見て飲ませましたか。

いつあなたが旅人であるのを見て宿を貸し、裸なのを見て着せましたか。また、いつあなたが病気をし、獄にいるのを見て、あなたの所に参りましたか。』

すると、王は答えて言うであろう、『あなたがたによく言うておく。わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである。』」12

兄弟姉妹の皆さん、ジャック・マコネル博士ときょうだいたちが毎晩夕食の時間

に尋ねられた言葉を、いつも自分自身に問うことができますように。「今日だれかのために何かをしてあげただろうか。」よく知っている賛美歌の歌詞がわたしたちの心にしみわたり、長くとどまりますように。

今日われ善きことせしか  
人を助けしか  
悲しきをも慰めしか  
かくせずば悪し  
人の重荷軽くして  
わが手貸したるか  
病みて疲れし者助け  
そこにわれおりしか<sup>13</sup>

わたしたち皆が行うように召されている奉仕は、主イエス・キリストの奉仕です。

主の大義のためにわたしたちの奉仕を求める主は、主に近づくようわたしたちを招いておられます。主は皆さんに、またわたしに語っておられます。

「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」<sup>14</sup>

もし心から耳を傾けるならば、かつてほかの人に語ったあの声が、遠くからわたしたちに語りかけるように聞こえてくるでしょう。「良い忠実な僕よ、よくやった。」<sup>15</sup>そのような祝福を主からいただけるように、わたしたち一人一人がふさわしい者となれるように祈ります。わたしたちの救い主イエス・キリストの御名により、アーメン。

注

1. ジャック・マコネル, “And What Did You Do for Someone Today?” Newsweek, 2001年6月18日付, 13
2. ジャック・マコネル, “And What Did You Do for Someone Today?” 13
3. ガラテヤ5:13
4. モーサヤ2:17
5. ルカ9:24
6. デビッド・O・マッケイ, Conference Report, 1963年10月, 8
7. エレミヤ8:22参照
8. モーサヤ18:8
9. 作者不明, リチャード・L・エバンズによる引用, “The Quality of Kindness,” Improvement Era, 1960年5月号, 340
10. グリー・アバント, “Prophet’s Birthday,” Church News, 2008年8月23日付, 4

参照

11. リチャード・L・エバンズ, “Living into Lonliness,” Improvement Era, 1948年7月号, 445
12. マタイ25 : 34-40
13. 「今日われ善きことせしか」 『賛美歌』 137番
14. マタイ11 : 28-30
15. マタイ, 25 : 21